

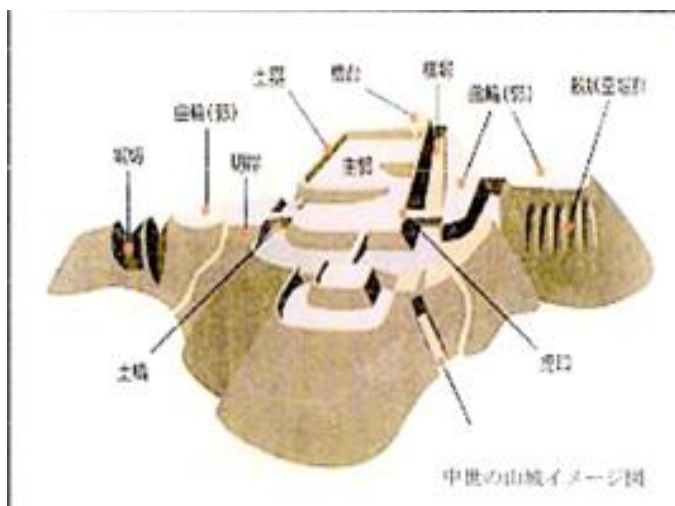
米子市文化財団は、2013年12月11日（水）、観音寺地区の狼谷山遺跡（おおかみだにやまいせき）の6世紀前半の古墳から、鳥取県西部（伯耆地方）では初となる馬具の一部が見つかったと発表しました。九州地方とつながりのあった豪族の存在がうかがわれる資料としています。この遺跡は米子市宗像、観音寺、長砂町にまたがった丘陵にある。

標高79mに位置する6世紀前半の古墳から「竪穴系横口式石室」が見つかり、中から副葬品として馬具のくつわの一部や、装飾品に使われた小玉（直径4mm）などが出土した。くつわの一部は形状から「f字型鏡板」と呼ばれるものです。全国では約100例、県内では3例目の発見になる。馬具は朝鮮半島から九州地方を経由して伝えられたという。馬具以外にも土器や矢じりなども見つまっている。財団の調査員は「くつわの一部が見つかるのは珍しく、朝鮮半島や九州地方とのつながりを示す貴重な資料」と話している。さらに調査の結果、中世の山城跡を検出しています。



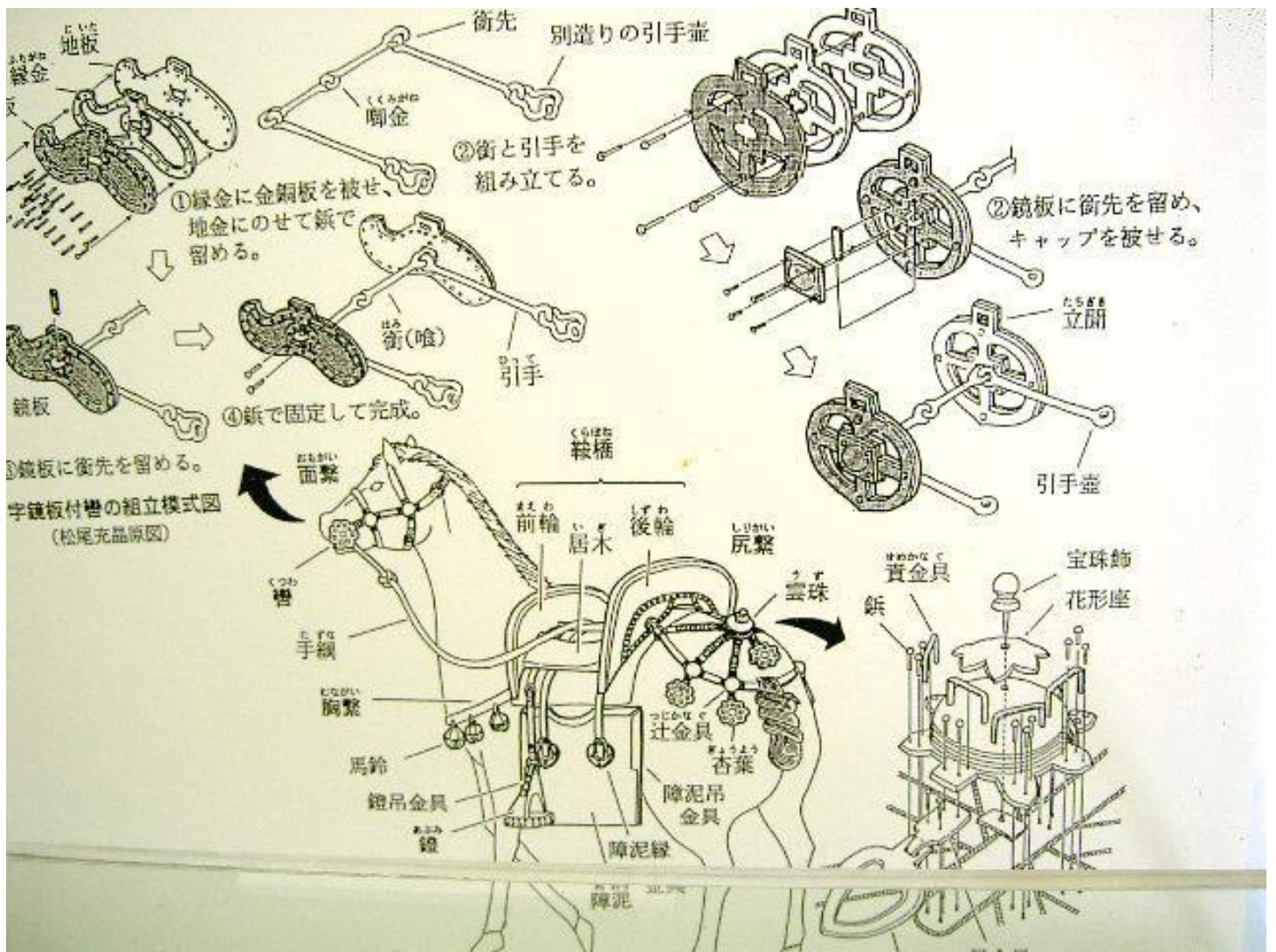
山頂部の「竪穴系横口式石室」が見つかった古墳です。当時の有力者が埋葬されたものと思われる。

山頂に近いところに、中世の山城の平らな部分を築いた平場が発掘されています。



発掘された、中世の山城のイメージ図です。





古墳時代の馬具の説明イラストです。



古墳時代の権力者のイラストです。





山頂からは 360° のパノラマです。手前が上水道水源地の一部で、日野川の向こうに箕蚊屋平野が広がり、雲をいただく 1709m の大山を望み、左の山は第七代孝霊天皇が行幸されたと云われる 751m の孝霊山（こうれいさん）です。